

令和2年9月4日

嬉野市議会  
議長 田中政司 様

産業建設常任委員会  
委員長 川内 聖二

## 産業建設常任委員会報告書

令和2年6月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会  
会議規則107条の規定により報告する。

付託事件名 所管の公共施設について

### 【調査理由】

令和2年7月21日、産業建設常任委員会所管の塩田町内4ヶ所の排水機場施設について、その所在の確認と現状について調査を行った。

### 【調査箇所】

馬場下排水機場・下童排水機場・大牟田排水機場・三ヶ崎排水機場

### 【現 状】

#### ◇ 目的として

機場周辺は、感潮河川（潮の満ち引きの影響を受ける）である塩田川・鹿島川に接する水田地帯であるために、常時の雨期ともに潮と雨の影響で河川水位が高く自然排水が不能となり湛水を生じる。また、地下水も高くなり転作に支障を来す。このような状況時、排水機場により排水を行ない湛水の防止や地下水の低下を図り畑作の導入と転作の定着化を実現し地域農業の振興を目的としている。

#### ◇ 維持管理として

馬場下排水機場が平成31年度より機場近隣の民間企業へ業務委託を行われ、他の3機場は、機場建設当時から地元の受益者間で設置された「排水機場管理組合」へ業務を委託し、冠水時の対応はもとより、月2回の定期点検も含め委託している。

機器の基本点検は佐賀県土地改良連合会へ年に2回委託し地下燃料タンクの機密点検も法に従って、年に1回専門業者に委託して実施をしているが、その結果で修繕を検討する。

また、200万円以上の修繕や工事は、国や県の補助を受けて行うが、馬場下・下童排水機場は、地域農業水利ストックマネジメント事業で、大牟田・三ヶ崎排水機場は、基幹農業水利ストックマネジメント事業で実施している。

#### ◇ 運転に関して

佐賀地方气象台から洪水等に関する警報が発令されている場合は、内水位が一定値に達すると同時に管理人の経験値も含め稼働する。通常は、洪水時以外は機場のポンプの運転は行わないとなっている。(ただし定期的な点検時は除く)

#### ◇ 現状の課題として

各排水機場の経年による老朽化を整備により延命する対策や、馬場下排水機場以外の管理組合の管理人の高齢化などが今後の大きな課題となっている。

#### ◇ 各排水機場の現況と目的

##### 馬場下排水機場 (昭和58年度 完成 受益面積 47.1ha)

この地区は、北側を山に南側を塩田川に囲まれた東西に細長い地区で、平常は塩田川及び浦田川に自然排水されているが、感潮河川であるため降雨時には河川水位も高く、自然排水が不能となり地区内に湛水を生じ、水田の畑作利用に支障を来している状況である。

当排水対策特別事業により排水ポンプを設置し、農地の乾田化を図り、稲作転換の定着と畑作振興を推進している。

##### 下童排水機場 (昭和61年度 完成 受益面積 48.2ha)

この地は、鹿島川と黒川の合流点の背後に展開する三角州性低地の地域であり、地区の排水は樋管により両河川に排水しているが、感潮河川であるため降雨時には河川の水位も高く自然排水が不可能となり、地区内に湛水を生じ水田の畑作利用に支障を来している現状である。

当排水対策特別事業に排水ポンプ(6.2 m<sup>3</sup>/s)を設置し、これと併せ他事業により導排水路整備及び暗渠排水を実施して農地の乾田化を図り稲作転換の定着と畑作振興を推進することを目的としている。なお、下童排水機場は、受益面積が鹿島市15.4ha(嬉野市32.5ha)にも及ぶため、維持管理負担金のうち45%を鹿島市が負担している。

### 大牟田排水機場（平成 10 年度 完成 受益面積 126.5ha）

この地区は、感潮河川である塩田川に接している水田地帯で、現在、排水を 4ヶ所の樋門で行っているが、常時雨期共に潮と雨の影響で河川水位が高く排水不能となり、湛水を生じている。

また、地下水が高く転作に支障を来たしているので、本事業により排水機能を高め湛水の防止、地下水の低下による乾田化を図り畑作の導入と転作の定着化を実現し、地域農業の振興を図ることを目的としている。

### 三ヶ崎排水機場（昭和 58 年度 完成 受益面積 51.0ha）

この地は、東は有明海に面し背後は多良岳連山が長崎県堺に接し、佐賀平坦部農業地帯に隣接する地域であり、南は鹿島川、北は塩田川に囲まれた有明海の干陸地で、約 900ha の純平坦水田地帯である。

本地区の排水は、12ヶ所の排水樋門で塩田川へと7ヶ所の排水樋門と2ヶ所の排水機物で鹿島川に排水する。受益面積 482ha の湛水を排除することにより水田の作付体系の高度利用と労力節減を図り、農業生産基盤の確立ならびに農業経営の安定向上に資すると共に集落地帯の向上を図ることを目的としている。

### 委員会の意見

ここ数年、異常気象がもたらす豪雨が毎年のように発生し、当市も含め近隣市町にも大きな災害を受けている。このような災害から生命財産を守るため市内に4ヶ所の排水機場を設けて有事の際に直ぐ稼働できるように機材の延命も図りながら点検等を定期的に行われている。今後の課題として挙げられている事は、オペレーターの高齢化や農業従事者の減少等による人材確保が困難になっていることである。

委員会としては、以前より女性を含めた人材確保を提言してきたが、現状としては厳しい。オペレーターは、発生する豪雨の規模や河川水位のデータだけで稼働させるのではなく、今後とも機械の連続稼働時間等や機材の性能を熟知して稼働できる事業所等への委託を含めたオペレーターの技術伝承育成が重要と考える。

現在、稼働により水位が下がれば問題は無いが、想定以上の豪雨時には、オペレーターの身に危険を及ぼす施設も見受けたので、高所へ避難する経路を改めて考えなければならないと感じた。

また、排水機場の機材の延命処置も含めての点検は行われてはいるが、建設されてかなりの年月が経っている施設もあるので、まだ大丈夫ではなく、早めの機材の交換と稼働時間をこれまで以上に、運用できるように燃料タンクの増設も含めて施設の充実強化を今後検討しなければならないと考える。